

2014年12月号

ほくし

発行所

社団法人 大阪北区歯科医師会

大阪市北区南森町1丁目4番28号

プールバール南森町205号室

TEL(06)6363-0016 FAX(06)6363-0046

一〇月二十二日(水)北区民センターにて、会員発表が開催された。演者である大月基弘先生は広島大学卒業後、勤務医を経てスウェーデンのイエテボリ大学に留学し、ヨーロッパ歯周病専門医、インプラント専門医を取得された経歴をお持ちで、我が北区学術部でも若手のホープとして期待されている新進気鋭のドクターである。今回はインプラント周囲炎をトピックに取り上げ、現在考えられている病態・治療方針など、文献的裏付けに基づくご自身の豊富な経験からわかりやすく講演頂いた。



学術講演発表会(会員発表)

「インプラント周囲炎は他人ごとではない」

H26.10.22

HP

インプラント周囲粘膜炎(Peri-implant mucositis)は、天然歯における歯肉炎と類似した病態であるが、インプラント周囲炎(Peri-implantitis)と歯周炎の病態は全く異なるということが明らかとなっている。インプラントの場合は、天然歯周囲に存在する結合組織性の付着が存在しないため、一旦周囲に感染が生じた場合には、バクテリアが直接骨まで到達するため、より病態は複雑なものとなる。

インプラント周囲粘膜炎の特徴は、炎症が周囲粘膜に局限していることで、通常骨吸収は認められない。患者レベルで六三・四%、インプラントレベルで三〇・七%と極めて高い発症率ではあるものの、通常は非外科処置の範囲で治療が可能といわれている。つまり、バイオフィルムの除去を徹底することで、健康な周囲組織へと戻っていくので、処置方針は歯肉炎と同様と考えてよい。

一方、インプラント周囲炎は、文献により多少の差はあるが、一〇年で患者レベル約二〇%、インプラントレベルでは

約一〇%と、周囲粘膜炎と比較して発症率は低いといえる。しかし、一旦周囲炎に移行してしまった場合は、完全に治癒させることは極めて困難であることが知られており、早期の対応が必須となるといえる。また、インプラント周囲炎のリスクインジケータとして、喫煙・歯周病の既往・ブラークコントロール不良・糖尿・飲酒・遺伝子発現(Gene Expression)・インプラント体の表面性状の順に高いと考えられている。角化組織の有無と周囲炎との関連は、現在のところ明確なエビデンスは存在しない。

インプラント周囲炎の治療に関しては、様々な試みがなされているが、基本的には外科的切除療法が第一選択とされている。補助的にレーザー治療や骨移植を併用する治療法に関しては、現在のところエビデンスは存在しない。大月先生は現在、外科的な切除療法によって、深いポケットを取り除くことで、悪性度の高いバクテリアが生存しにくい環境を作ることに加え、インプラント体表面に付着したバイオフィルムを機械的に取り除くことを徹底されている。現在バイオフィルムの除去には、Brushという回転器具を用いてデブリドメントを行ったのち、

ガーゼでインプラント表面を刷掃している。

しかし、早期発見は極めて重要で、メインテナンス時のインプラント周囲へのプロビングは、付着を剥がすという観点から、過去には禁忌とさえ言われていたが、現在は、むしろ積極的に行うべきであると考えられている。最も重要なことは、メインテナンスを中心とするSPTプログラムが確立していることであり、きつちりとメインテナンスに応じる患者にはインプラント周囲炎は発症しにくいというエビデンスが存在する。

最後に、今回のテーマであるインプラント周囲炎に関して、治療後の長期予後に関する質の高い論文はまだ少ないため、今後の研究報告が待たれるところである。現在わかっていることは、インプラント周囲病変の有病率・炎症性病変の特徴・インプラント周囲病変の細菌叢・リスクインジケータ・周囲粘膜炎の治療法・OFD(OPEN FLAP DEBRIDEMENT)の有効性などである。逆に現在わかっていることとして、ホスト側のインプラント周囲炎にかかわる因子(Gene・遺伝的要因/Susceptibility・病気のかりやすさ)を挙げられた。(学術部・奥野幾久記)

パノラマ

最近スタグフレーションという言葉が耳に響くようになってきました。スタグフレーションとは、停滞という意味のスタグネーションと、インフレーションを組み合わせた造語で、経済の停滞や不況と同時に物価上昇が起ることを指します。デフレからの脱却と二%の経済成長を目標に掲げ順調に成果を上げて来たかに見えたアベノミクスでしたが、今年四月の消費増税以来何やら雲行きが怪しく成ってきました。消費増税引き上げに伴う駆け込み需要の反動や実質所得の減少により個人消費が落ち込んだ影響で、四月六期GDP成長率が前期比年率マイナス六・八%と大幅なマイナスになった所迄は想定内の範囲内でしたが、回復が見込まれた七・九月期も年率マイナス六・八%と、予想を裏切る低水準となりました。低調な実態経済状態を受け、政府は来年一〇月に予定していた消費税率一〇%への引き上げを先送りすることを決めました。毎年大量の赤字国債を発行し一向に改善しない財務状態を続けることで日本国債の信用が下落すればハイパーインフレを引き起こすかも知れない微妙な判断を下すこととなりました。本日のスタグフレーションはこれからやってくるのかもしれませんが。(H)

医療管理講演会

「歯科における院内感染対策」
リフレッシュのために！」

H26.11.14



十一月一日(金)午後七時三〇分より大阪東急インに於いて医療管理講演会が開催されました。講師に兵庫県立柏原病院歯科口腔外科、連利隆先生をお招きしました。高麗会長の挨拶で始まり、続いて演題「歯科における院内感染対策」リフレッシュのために！」でご講演して頂きました。

新聞朝刊に掲載された「歯を削る機器七割使い回し減菌せず院内感染懸念」の記事は、多くの国民に不安を与え、歯科医師の先生方も複雑な思いで記事を読まれたことと思います。

この報道に対して厚生労働省は六月四日に都道府県、保健所設置市衛生主管(局)



長、特別区宛てに通知を出し、「使用したハンドピースは患者ごとに、オートクレーブ滅菌することが強く勧められる」とし、「所管の歯科医療機関に対し、ハンドピースの滅菌等の院内感染対策の啓発に努めるようお願いしたい。」としました。そして、翌六月五日、



日本歯科医師会が都道府県歯科医師会会長宛に「歯科医療機関における院内感染防止対策について」の通知で、「エビデンスに基づく一般歯科診療における院内感染対策」(二〇〇七年日本歯科医学会監修)、「一般歯科診療ガイドラインによる院内感染対策Q&A」(二〇一〇年日本歯科医師会のガイドラインの周知徹底を図るよう指示しました。

これに沿って、歯科医療機関は院内感染にどう対処していけばいいのかを、歯科の医療機関を対象とした院内感染対策に関する調査のデータと以前に北区歯科医師会で行ったデータと比較しながら、懇切丁寧に基本から応用まで説明して頂きました。

最後に大塚副会長のお礼の言葉で閉会となりました。参加者は三〇名でした。(常務理事・中川晴彦)

医療保険講習会

「口腔リハビリテーションの概念と実践」

H26.11.20



十一月二〇日(木)午後七時半より、梅田のユーズツウにおきまして、医療保険講習会が行われました。講師に大阪大学歯学部付属病院 顎口腔機能治療部助教の野原幹司先生をお迎えし、「口腔リハビリテーションの概念と実践」と題してご講演いただきました。

参加者の多くは「摂食機能訓練」の具体的手法についての話を想像されたことと思いますが、訓練は「摂食機能療法」の一部に過ぎず、歯科医師は「食医」を目標して患者の状態をより大局的に捉え、いかに栄養摂取をさせるか考察することが肝要であるという総論的な内容のお話でした。多

岐に渡り示唆に富むお話をしてくださいましたが、紙面の都合上、その一部を簡略化してご紹介いたします。

在宅医療において歯科に求められるのは、摂食・嚥下機能の向上と気道感染(誤嚥性肺炎)の予防である。

認知症患者の三〜四割に嚥下障害が認められるようになってきている。意識レベルが低いと誤嚥しやすく、五感に訴えるようにすると効果あり(ご飯を入れる茶碗を白色から黒色に変えて米を認識しやすくしたところ、残飯が減ったという事例の紹介あり)。嚥下機能が同じでも口腔機能(食塊形成能)の状態次第で、誤嚥の頻度が変わる(食塊がまとまっており、こなれてドロドロしていると嚥下しやすく、反対に、まとまらず、こなれておらずバラバラの場合は嚥下しにくい)。

歯があるのに食べられない患者もいる(アルツハイマーの患者は「ご飯を食べよう」と声をかけないと食べられない)。

高齢者の義歯は咬合高径が低い方がよいと思われる



(咬める・つぶせる義歯Ⅱ飲み込める義歯)。状況によつては、義歯を外した方が栄養摂取しやすい場合もある(義歯の必要がない患者)。

また、口腔機能に応じた指導や訓練を行うことで、「摂食機能療法」(一八五点)が算定可能であることも併せてお教えくださいました。

今後、口腔機能に応じた食事内容の提案に対して、点数項目の新設の可能性もあるとお話でした。

ご講演の内容の大部分は、先生の著書「認知症患者の摂食・嚥下リハビリテーション」(南山堂)で確認できるとのことです。この貴重なご講演を生かして、明日からの診療の一助としたいと思っています。

(医療保険部・中谷 徹)

大阪府歯科医師会と 大阪市北部隣接7地区役員との懇談会

H26.10.7

一〇月七日（火）午後七時より府歯会館大ホールにおいて、標題の懇談会が行われた。当地区からは執行部役員、府歯からは、太田会長をはじめとして、以下のご出席があった。他六地区からも役員が多数出席された。



（太田謙司会長、古川壽男副会長、牧野利彦専務理事、草間由紀理事、木田友信理事、片岡宏之理事、河村達也理事、山本博史理事、小池宏忠理事、大阪府歯科医師連盟城村幸治理事長、大阪府歯科医師国民健康保険組合河島保孝専務理事）河村理事の司会で会が進行し、事前に地区間で協議した下記の四題について、回答と協議が行われた。要点のみご報告します。

一、消費税が一〇％に増税された場合について

現状、医療は非課税である。そのため、患者負担が増えない、特措法、二六条（白色申告）の適用などのメリットがある。自費についても消費税免税点制度（一〇〇万円）・簡易課税制度のメリットがある。日歯見解では、当面非課税を守っていく。非課税還付（診療報酬による補填）、ゼロ税率を主張していく。

二、院内衛生管理・感染予防対策への取り組みについて

医療従事者を介して起こる患者間の交差感染の防止と、患者が保有している可能性のある病原体から医療従事者の職業感染を防止することが目的である。安全で安心な質の高い医療体制の整備のため、「歯科医療安全管理体制推進事業」を実施している。

エビデンスに基づいた標準的・程度の概念・定義が必要。「医療機器の洗浄・滅菌を徹底するなど、院内感染防止策を講じています。オートクレーブを設置」というようなことを院内に標

記するべきである。
三、平成二十七年の統一地方選挙ならびに二八年の参議院選挙について

国政については、今までお願いしてきたことと同様である。地方選挙においては、地域に密着した、政党だけにとらわれない対応で結構である。

四、歯科医師国保の将来的な見通しについて

保険料は増額されているが、一般国保に比べると、同等所得に対しては下回っている。

乙種についても歯科医師とそれ以外に分けるなどの

北区みんなの健康まつり

H26.10.17

HP

一〇月一七日（土）午後〇時三〇分より北区民センターにおいて平成二六年度北区みんなの健康まつりが開催されました。



今年のテーマは「力を合わせて 健康なまち北区を！」でした。

当日は絶好の秋晴れに恵まれ区民の皆様は多数ご参加いただきました。当会ではひぐち歯科医院の歯科衛生士さん二名にも協力していただき、恒例の歯科相談を実施しました。

ご高齢の方の義歯や乳幼児・学童児の口腔内の相談を中心に計九五名の方がお見えになり、盛況のうちに幕を閉じました。
（地域医療部・奥村豪記）



天六フェスティバル

H26.10.5

一〇月五日（日）正午より住まい情報センター一階広場において天神橋六丁目商店会より依頼があり音楽ライブ、青空市場等と同時に無料歯科相談会が開催された。

今回で三回目となり歯科医師二人体制で臨みました。（以下のような相談がありました。）

- ・COがたくさんあると言われたが大丈夫ですか？
- ・三か月に一回検診に通っているが、必要なのか？毎回四〇〇〇円もかかるのか？
- ・歯茎が腫れて受診すると洗浄のみで治療してくれない。
- ・奥歯を保険で治療すると銀色になるの？
- ・歯の色が気になる。
- ・四〇歳の息子が歯科恐怖症で困っている。
- ・一年半前に歯から歯が入ったため顎下から手術したが、いまだに腫れたり口が開けにくくなる。
- ・歯が抜けたまま二カ月放置しているが、どうしたらいいのか？
- ・歯槽膿漏が治らない。
- ・歯ブラシはどれがいいのか？



- ・自己免疫が低下中であるが歯科治療は問題なのか？
 - ・顎が開かない。
 - ・知覚過敏は治るのか？
 - ・インプラントについて
 - ・一週間前にインプラント手術を受けたがまだ痛みが続いている。
 - ・子供の歯並びが悪いが矯正をした方がいいのか？
 - ・虫歯が気になる。
 - ・入れ歯を作り直したい。
- 今回は台風前で開催も危ぶまれましたが、なんとか天気も持ち開催する事ができました。
- 普段診療所では聞けない患者さまの生の声が直接聞ける有意義な歯科相談となりました。
- （洪里周作記）

北歯ゴルフ同好会秋季コンペ

H26
10.5

一〇月五日(日) 北歯ゴルフ同好会の秋季コンペが、伏尾ゴルフ倶楽部で開催されました。今回各々の諸事情が重なり、メンバー六名、ビジター三名、計九名と参加者の少ないコンペになりました。

当日は台風の迫る曇天の中、昨年の雷雨中断が心配されましたが、今回参加者の皆様の日頃の行いの良さか、無事ホールアウトまでほぼ雨も降らずに楽しく終

えることができました。

成績は、橋本哲志先生が吉崎先生の三連覇を阻み見事に優勝、吉崎恵忠先生がハーフ三十三を出しながら二位、医師会から参戦の中村積方先生が三位という結果になりました。

次回の春季コンペは平成二七年四月十二日(日)西宮高原ゴルフクラブにて開催予定です。奮ってのご参加お待ちしております。尚、ゴルフ同好会への入会を希

望される先生は、土岐一仁先生までご連絡お願い致します。(樋口夏彦記)



平成26年度・北歯ゴルフ同好会秋季コンペ成績

RANK	NAME	OUT	IN	GROSS	HCP	NET	次回HCP
優勝	橋本 哲志	42	42	84	13	71	8
準優勝	吉崎 恵忠	33	41	74	1	73	0
3位	中村 積方	45	50	95	18	77	16
4位	樋口 夏彦	54	48	102	25	77	
5位	橋本 收	46	47	93	15	78	
6位	西川 亨	44	51	95	16	79	
7位	水沼 和夫	62	60	122	37	85	
BB	黒川 森夫	58	58	116	29	87	
BM	渡辺 道雄	52	57	109	18	91	19

ニアピン		樋口、吉崎、中村、西川
ドラコン		橋本哲、中村
ドラチョン		黒川、橋本收
ベスグロ		吉崎
大波		吉崎
小波		橋本收
並び		黒川

※北歯コンペは、同ネットの場合の順位はハンディ上位、年齢上位、女性上位の順で決定します。敬称略/順不同

会員懇親会

八六年の歴史が創り上げた名料理を食す会

H26.11.26

HP

十一月二六日(水)、毎年恒例の会員懇親会を「北新地 アラスカ本店」にて開催させていただきました。

一八〇名を超える大阪北区歯科医師会ですが、会員だけが集まって食事をする機会は、この懇親会しかありません。従いまして、福祉部としても、何とか会員の皆様が「お、行こうかな」と思っていただけの会場を選び、大先輩も新しく入会された先生方も共に楽しんでいただける、交流の場にしていただきたいと、頭と足をつかっている次第です。

当日は三十二名の先生方にお集まりいただきました。今回のテーマは「八六年の歴史が創り上げた名料理を食す会」でありました。アラスカは食の倒れの街大阪



で、古くは皇族や文化人、いわゆる「ハイカラ」な方々が訪れる洋食店として、長い歴史と人気を誇って来たそうです。大塚禮三先生のご発声により、スパークリングワインで乾杯し、懇親会が始まりました。和やかな歓談の中、冷製オードブルに始まり、珍しい和ごぼうのスープ、鰯のボワレと料理は続き、赤白のワインもすすみました。メインにはアラスカ特製のデミグラスソースを最も楽しめる、ハンガリアンビーフシチューとタンシチューのコンボをいただきました。濃厚だけれどもどこかさっぱりとした「八六年の歴史」が作り上げたまさに名料理だと思われました。デザートでは、ちよっぴり皆さんにお楽しみいただければと、照明を

落とし、アラスカ名物の炎のアイスクリーム『ベイクドアラスカ』のパフォーマンスを特にお願しました。サプライズ!というほどのものでは無かったかもしれませんが、お酒の香りの効いた美味しいデザートでコースが締めくくられました。

野口副会長の閉会のご挨拶により懇親会は終了致しました。来年も皆さんが「行ってみよかな」と思っていただけのような楽しい集いにしたいと思しますので、今年お越しになれなかった会員の皆様も、来年は是非ご出席いただきますようお願いして、報告とさせていただきます。

(担当理事・土岐一仁)



編集後記

今年も残すところ数日となりました。来年もどうぞよろしくお願致します。